

高田健さん講演会報告

一声を力に 国会と全国を結ぶー

戦争法制・改憲をめぐる状況と私たちの課題

八木 巖

12月12日に、高田健さんの講演会をおこないました。高田さんは、あの国会前行動をつくりだしてきた「総がかり行動実行委員会」の中心となってこられた方です。8月30日には12万人の人たちが国会前に結集しました。

8月30日当日、私は国会前にいました。比較的早い時間に到着しました。音響装置が設置されていて音楽が流されていました。このスピーカーから流れていた音楽は、一つはレゲエ、もう一つのバンドはニューオリンズのリズムにのせたものでした。これを聞いて、私は東京の運動にまず◎をつけました。人がどんどん増えてきて、参加者に配る「戦争法案は廃案」というバナーがなくなったので、係りの人から本部に取りに行ってくださいと頼まれました。しかし、横断歩道を通行することを警察にこぼまれて、大回りしていたら、あまりの混雑に本部にたどりつけませんでした。とうとう、身動きがとれなくなり、私は本部に行くことをあきらめました。その旨係りの人に連絡し、SEALDSの近くにいってみました。そこで有名なあのラップ調のコールを聞きました。これまで私はラップ調のコールというのはあまり好きではありませんでした。カッコいいと思えたことがあまりなかったのです。しかし、SEALDSのコールを聞いたときにビックリしました。コールを続けたあとに、「アベハ ヤメロ」「タ・タ・タ タ・タ・タ」と三連にリズムを変えて、終えていったのです。コナれている。カッコいいと思いました。そして本部近くに行くと若い女性がコールをやっていました。SEALDSと同じの



をやっていました。ファッショナブルでした。スピーカーからは高田さんの「ケガ人を出すな、無事に行動を終わらせたい」というような呼びかけが流れていました。高田さんがよく言われている非暴力で安全な行動ということでしょうか。民主党の岡田さん、共産党の志位さん、社民党の吉田さん、そして「生活の党と山本太郎と仲間たち」の小沢さんがあいさつをしていました。私はすぐ裏の林のなかに行き、ここも人がいっぱい、よく見えませんが、社民党の吉田さんが、テンションが高く、声がかすれ、裏返っていたことを覚えています。このころには参加者を歩道に閉じ込めていた鉄柵がとりのぞかれていました。高田さんは名古屋の講演のなかで、みんなが正門前に来たがって困ったと言っておられましたが、わたしも実は正門前に行って国会議事堂をバックにしたデモ参加者の動画をとりました。もちろん顔はいれておりません。チラシをみていたら、肖像権保障エリアというところがもうけられているのを知りました。きめ細かい配慮があったようです。とても多くの人が集まっていました。この日の帰りに赤旗の号外が出ていて、なぜか名古屋から行った人たちの大寫しの写真がでていました。目立っていたのでしょうか。12万人が行動に集まったということでした。名古屋でも「100万分の1」行動をおこなっているので、連絡をとりました。名古屋でも大勢集まっていることはわかりましたが、電話では実数はよくわかりませんでした。

私のこの集会への感想を述べます。組織や団体を横断して総がかりの運動をつくりだし、真ん中に市民運動がいたこと、また、非暴力でだれでも参加できる運動が根付いていることが感じられました。また、若者たちを中心に、自分たちの主張を自分たちの言葉や表現方法で提示していると思いました。な

によりも、とてつもない人たちが集まっていました。総じて新しい運動という感じでした。

高田さんの講演会報告にもどります。

高田さんは12月、韓国の人権団体から「リ・ヨンス賞」をうけられました。リ・ヨンスさんは韓国の有名な人権ジャーナリストだった方。高田さんは海外ではじめての受賞者だそうです。

高田さんはこの8月30日の行動について話されました。総がかりの運動をつくりだすための苦勞を語られました。人集めの工夫も語られました。高田さん自身がフェイスブックを始めたとのこと。名古屋で2月におこなった「全国交流会」でも若い人から、SNSの重要性がいわれていました。高田さんはそこで、フェイスブックを始めると宣言していました。若い人はSNSで集会情報を得ているのですが、そうでない人を集めるためには莫大なお金をかけて新聞広告を打ったと言われていました。多くの電話での問い合わせがあり、この対応が本当に大変だったとのこと。そして12万人という「数」について言及され、警察発表3万5千人発表は、国会で問い正された結果、最終的に「ある時間ある場所での数字」と変更されました。

高田さんは現状を憲法と戦争法が並立する状態だとして、今後、街頭行動を続けたいし、戦争法廃止、発動させない運動、訴訟運動や参議院選挙で一矢を報いなければならないと話されました。

高田さんは総括として、「2015年安保」は総がかり行動というかたちで日本の平和運動の大連合をつくりだすことができた(19団体)。この団体がその後「戦争法廃止署名2000万人署名」もとりにくっていると成果をあげられました。そして自立した、自覚した個人の参加する集会をつくりだせたと話されました。これは画期的なことだと思います。

なぜ敗北したのかという分析について、与党の分裂をつくりだせなかったこと、もっと安倍政権の支持率をさげなければならなかった。産経新聞のアンケートでは17%の人がデモに参加したいと思っていたとのこと。人数にすれば2000万人。例えば非正規ではたらいっている人などなかなか運動に参加できなかったのではないか？(日常的なつながりが必要。)女性たちの反安倍の世論は非常に高かったことが指摘されています。

今後の運動についてはやはり参議院選挙が焦点で、改選議席数121の過半数をとりたい、安倍政権へ

の不信という意味で絶対必要な議席ということ。とりわけ一人区32か所が重要である。総がかり行動、学者の会、SEALS、立憲デモクラシー、ママの会で「市民連合」を結成し、統一候補を出す運動をするそうです。そして投票率をあげなければ勝つことができない。そのためには2000万人署名を基礎にしていかなければならないとされました。

最後に「新9条論」にふれられました。最近でできた言説で、現実が憲法9条とかけはなれているので、憲法を守らないという政治がうまれた。現状にあった9条に変え、憲法を守らせよう、というものだそうです。この危険性を指摘し、「新9条」が歯止めになる保証はないと言われました。

以上。

高田健さんのこの日の講演は Youtube にアップしました。

<https://youtu.be/AJeK5rw2UkE>

高田健さん講演(前半)

<https://youtu.be/dV6qcOs0h88>

高田健さん講演(後半)

これからも事情が許せば、講演会や学習会などを映像で記録し、Youtube で紹介します。ただし、参加者の皆さんが特定されるような映像はあげません。